



あかしや

～豊かなくらしを自ら創り出す子どもの育成～

山形市立第九小学校

令和4年11月4日 No.9

発行：校長 大沼清司

山形市馬見ヶ崎 2-5-1

10月17日(月)開校65周年記念式を行いました

昭和32年4月、山形市銅町というところに誕生したあかしや学園は、今年で満65歳を迎えました。当時、銅町にあった校舎は39年間使われ、平成8年にここ馬見ヶ崎に新しい校舎ができました。この校舎は、今年で26年目を迎えます。外からいらっしゃるお客さんからは、「新しくてきれいな校舎ですね。」といつも誉められ、私が「26年経つんですよ。」とお話すると、とても驚かれます。これまでの先輩たちもずっと大切にこの校舎を使い続け、心を込めて掃除してきたのです。そして、ここにある冊子は、今から5年前、6年生が1年生だった時に、ちょうど60歳のお誕生日を記念して作られたものです。この中に、九小の自慢が書いてあったので、紹介します。全部で10個ありますが、今もしっかり引き継がれているのでしょうか。



- ① 大好きな友だちがたくさんいること。
- ② 全校のみんながとっても仲がよいこと。
- ③ 全校があいさつをがんばって、「あいさつ」の音が響いていること。
- ④ 楽しい行事がたくさんあること。
- ⑤ グラウンドと体育館がとっても広くて、たくさん遊べること。
- ⑥ 校舎が大きくて、明るいこと。
- ⑦ 授業が楽しくて、学習がよく分かること。
- ⑧ みんなが児童会目標に向かってがんばっていること。
- ⑨ フレンドタイムで縦割りの交流が活発なこと。
- ⑩ 上学年の子が下学年の子にいろいろ教えてくれること。



当時1年生だったひまわり学年の皆さんは、しっかりとこの自慢を引き継いで、後輩たちに伝えていこうとしていますね。これまで先輩たちが大切にしてきたこの自慢を、ぜひこれからもしっかりと受け継いで、もっともっと自慢できる楽しい学校をみんなの力で創っていきましょう。

九小は今年で六十五才になりました。今日は、私が6年間過ごしてきた感じのよいところや、受け継いできたことなどについて紹介します。

まず、九小のよいところは、明るいあいさつです。学校に来ると、いろいろな先生方が私たちにあいさつしてくれます。そうすると、私たちも元気にあいさつを返しています。そういうあいさつがたくさんあるところがいいなと感じます。また、自分からあいさつをしたり、友達からあいさつをされたりすると、うれしくなります。あいさつの声がもっと増えて、一日が楽しくなるようなスタートになるといいです。

次に私たちが受け継いでいることです。それは、委員会です。私たちは去年から、六年生の姿を見て、今年度、どんな委員会活動をするのか、考えてきました。委員会の数は減りましたが、委員会活動を通して、九小をよくしたいという気持ちは変わりません。今までの活動でよかったところはまねをするところもあります。そして、今年になって委員会の人全員で考えて内容を深めています。私は放送委員会ですが、五年生も六年生も放送の案を出し合って、みんなが楽しめる放送になるように頑張っています。こうやって委員会は受け継がれています。

これから九小のみんなでもっとがんばりたいことは支えあいです。今年はフレンドタイムやフレンド清掃で、1～6年生で関わりあう機会がたくさんあります。そんな時に仲が深まり、みんなで支えあえたらいいなと思います。

このように、九小にはよいことやすごいことがいっぱいあります。これから私たちが、もっともっといいところをのびしていきたいです。

※当日は学級閉鎖だったため、後日発表しました。

開校65周年記念スクールコンサート開催

記念式の後、体育館でスクールコンサートを開催しました。内容は、オペレッタ工房「フェアリー・テイル」というソプラノ・テノール・ピアノの3名で結成されたユニットによる『幸福の王子』というオペレッタ（音楽劇）です。

エジプトに旅立とうとしていたツバメが



出会った幸福の王子の像。その王子

の目には涙が流れています。自分では動くことのできない王子が、世の中の様々な苦難を背負う人々を見て泣いているのです。自分についている宝石を届けてほしいとツバメに頼みます。大好きになった王子の頼みを何度も聞いているうちに、ツバメはとうとうエジプトに旅経つ時期を逃し、命が尽き果てるというお話でした。

目の前で生の歌声や演技、演奏を体感した子どもたちは、キラキラと目を輝かせ、食い入るようにオペレッタを鑑賞していました。生でなければ味わうことのできない音楽の魅力を十分に味わった豊かな時間となりました。

